

活動状況等報告

①専門ワーキング報告

1. ワーキング開催概要

2021年度に開催された専門ワーキングの開催概要は、以下の通り。

農地環境ワーキング

第4回ワーキング

日時	2022年3月25日（金）14:00～16:10
場所	国土交通省 出雲河川事務所 会議室（オンライン併用）
主な議題	①生きものを育む農業に係る連携の可能性がある地域の状況について ②生きものを育む農業に係る交付金・助成金等の支援策について ③生きものを育む農業に係る担い手確保の可能性について



会議の様子

地域振興ワーキング

第4回ワーキング

日時	2021年9月24日（金）14:00～16:10
場所	国土交通省 出雲河川事務所 会議室（オンライン併用）
主な議題	①愛称・シンボルマークの選定について ②大型水鳥類を活用した観光振興について



第5回ワーキング

日時	2022年3月15日（火）14:00～16:00
場所	国土交通省 出雲河川事務所 会議室（オンライン併用）
主な議題	①愛称・シンボルマークの選定について ②愛称・シンボルマークの利用上のルールについて ③大型水鳥類を活用した観光振興について



会議の様子

環境学習ワーキング

第4回ワーキング

日時	2022年3月25日（金）10:00～12:00
場所	国土交通省 出雲河川事務所 会議室（オンライン併用）
主な議題	①圏域における環境学習活動の報告 ②愛称・シンボルマークの選定について（報告）



会議の様子

水辺環境ワーキング・鳥類ワーキング

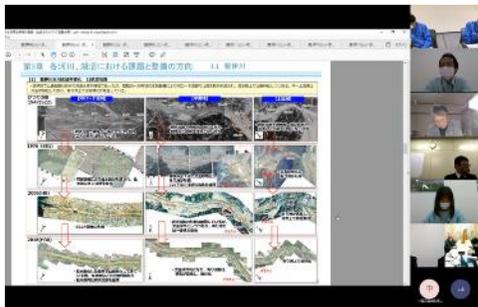
第1回水辺環境ワーキング(東)・第4回鳥類ワーキング(東)

日時	2021年12月9日（木）19:00～21:00
場所	オンライン会議
主な議題	①協議会の推進体制の改組について ②斐伊川水系の自然再生について ③全体構想短期目標の達成に向け必要な事項について



第1回水辺環境ワーキング(西)・第5回鳥類ワーキング(西)

日時	2021年12月17日（金）14:00～16:10
場所	オンライン会議
主な議題	①協議会の推進体制の改組について ②斐伊川水系の自然再生について ③全体構想短期目標の達成に向け必要な事項について



会議の様子

2. 農地環境ワーキングの開催

(1) 概要

2022年3月25日(金)に、連携の可能性がある生産者グループの代表を招き、協議会として対応可能なサポートについて意見交換を行った。

日時	2022年3月25日(金) 14:00~16:10		
場所	国土交通省 出雲河川事務所 会議室(オンライン併用)		
参加メンバー	農事組合法人野尻の郷 代表理事	飯島 昭人	
	コウノトリの会春殖 事務局長 大東大月谷集落協定	岩田 守弘	
	(公財)ふるさと島根定住財団	小笠原 啓太	
	出雲市農業振興課 朱鷺のまち推進室 室長	梶谷 房生	
	雲南市 政策企画部 地域振興課	鶴原 隆	
その他	島根県 農林水産部 産地支援課	宮崎 弘文	
	協議会参加自治体の関係部署 国土交通省 出雲河川事務所 (公財)日本生態系協会		
主な議題	①生きものを育む農業に係る連携の可能性がある地域の状況について ②生きものを育む農業に係る交付金・助成金等の支援策について ③生きものを育む農業に係る担い手確保の可能性について		



(2) 主な議事内容

1. 生きものを育む農業に係る連携の可能性がある地域の状況について

- 取組状況の紹介(3団体)
- ・農事組合法人やない(松江市玉湯町)
 - ・農事組合法人野尻の郷(出雲市野尻町)
 - ・大東大月谷集落協定(雲南市大東町)
 - ・耕作放棄地の増加、担い手不足が共通の課題。
 - ・コウノトリが飛来する地域では、コウノトリの存在が癒しとなり、活動の原動力となるとの報告あり。

2. 生きものを育む農業に係る交付金・助成金等の支援策について

- 各支援策に関する情報提供を行なった。
- ・環境保全型農業直性支払交付金(出雲市)
 - ・出雲市地域主体型生産調整推進事業(出雲市)
 - ・出雲市新出雲農業チャレンジ事業費補助金
 - ・出雲・雲南地域生物多様性連携保全活動計画
 - ・協働で叶える市民活動促進事業補助金(雲南市)

3. 生きものを育む農業に係る担い手確保の可能性について

- 各団体の取組に関する情報提供を行なった。
- ・環境保全型農法に関する普及・研究団体(例:日本不耕起栽培普及会)
 - ・有機農産物等を使用・販売する小売店・飲食店(例:日々の糧)
 - ・地域づくりマッチングサイト(例:しまっち!島根関係人口マッチング・交流サイト)

◇ワーキングメンバーからの意見等

換地(農道・水路)の管理について

- ・担い手不足の中、法定外公共物である農道や水路の管理にかかる現場の負担が非常に大きい。多面的機能支払交付金では予算が少ない上に制限があり活用できない。環境保全型農業の中で水路等を含めた農地を守る仕組みができることを期待する。

地域住民との協働について

- ・休耕田等の管理にあたって、自治会全員が参加する道路愛護デーのような取組を活用できないか。地域住民が管理に自然と関わるような土壌形成が望まれる。

今後の方向性

連携の可能性がある地域に対して、地域の特性を考慮して個別に具体的なサポートを検討し、可能なものから導入すると共に、引続き関係人口発掘に係る情報収集・情報提供を行う。

3. 地域振興ワーキングの開催

(1) 概要(令和3年度1回目)

2021年9月24日(金)に、観光振興および、愛称・シンボルマークの投票方法、利用上のルールの考え方について、意見交換を行った。

日時	2021年9月24日(金) 14:00~16:10		
場所	国土交通省 出雲河川事務所 会議室(オンライン併用)		
参加メンバー	道の駅 湯の川 駅長	金築 豊	
	(一社)出雲観光協会 事務局次長	斉藤 謙一	
	神門通り甦りの会 会長	田邊 達也	
	雲南市 政策企画部 地域振興課	鶴原 隆	
その他	中海・宍道湖・大山圏域観光局 代表理事	矢野 正紀	
	協議会参加自治体の関係部署 環境省 大山隠岐国立公園 松江管理官事務所		
	国土交通省 出雲河川事務所		
主な議題	(公財)日本生態系協会		
	①愛称・シンボルマークの選定について ②大型水鳥類を活用した観光振興について		



(2) 主な議事内容(令和3年度1回目)

1. 協議会の愛称・シンボルマークの選定について

愛称等を決める方法について、主に①圏域に住む人を主対象に、期間を設けてチラシ兼投票用紙を各所に設置し、投票いただく方法と、②大型水鳥を活用した環境学習を進めている小学校に対し投票を呼びかける方法を提案した。また、①に関連して、斐伊川エコネットのウェブサイトを開設し、webによる投票も受け付けることをあわせて提案し、意見交換を行った。

また、愛称やシンボルマークの利用を円滑に進めるためのルール作りも必要と考えられたことから、その方向性について意見交換を行った。

◇ワーキングメンバーからの意見等

- ・小学校への投票の働きかけについて、中海側が手薄のように思う。例えば米子水鳥公園等を通じて、周辺の小学校に働きかけることはできないか。
- ・(チラシに掲載する)シンボルマークについては、デザインの意図するところについて、説明があった方がよい。
- ・ウェブサイトについては投票サイトだけでなく、圏域の色々な取組を支援してくれるものと捉えている。必要な情報を随時更新できるようにしてほしい。
- ・シンボルマーク等の利用については、民間団体でも使いやすいようなルール作りを進めて欲しい。
- ・シンボルマークは、一般に言うブランドロゴ「ではない」こと、このマークをつけた商品の価値を認可するものではないことを、明確にした方がよい。

一般投票の結果は議事1で、ルールについては議事2で述べる。
なお、投票期間の設定後、米子水鳥公園を含むワーキングメンバーとなっている環境学習施設を対象に、学校対応の有無について確認したがいずれも期間中はないと回答があった。

2. 大型水鳥類を活用した観光振興について

2019年~2020年度に実施した斐伊川河口ツアー等観光振興の取組を報告し、今後の観光振興の進め方について、意見交換を行った。

◇ワーキングメンバーからの意見等

- ・斐伊川河口ツアーについては、観光協会を中心としたツアーの独力催行に向け、専門家を交えた研修を行うことが望ましいとする意見があがった。

(3) 概要(令和3年度2回目)

2022年3月15日(火)に、一般投票の結果を踏まえた愛称・シンボルマークの選定と利用ルールについて検討を行った。

併せて観光振興に関する新たな展開について意見交換を行った。

日時	2022年3月15日(火) 14:00~16:00		
場所	国土交通省 出雲河川事務所 会議室(オンライン併用)		
参加 メンバー	エピオネイチャーガイドオフィス 代表	池田	友紀
	(一社)出雲観光協会 会長	田邊	達也
	神門通り甦りの会 代表		
	雲南市 政策企画部 地域振興課	鶴原	隆
	(株)山陰中央新報 編集局報道部 ニュースセンター委員	舟越	幹洋
	山陰インバウンド機構 事務局長	堀江	隆典
その他	協議会参加自治体の関係部署		
	国土交通省 出雲河川事務所		
	(公財)日本生態系協会		
主な議題	①愛称・シンボルマークの選定について ②愛称・シンボルマークの利用上のルールについて ③大型水鳥類を活用した観光振興について		



(4) 主な議事内容(令和3年度2回目)

1. 愛称・シンボルマークの選定について
2. 愛称・シンボルマークの利用上のルールについて

愛称・シンボルマークの選定や、利用上のルールについては、ワーキングで出された意見を含め、それぞれ議事1, 2にて詳述する

3. 大型水鳥類を活用した観光振興について

斐伊川河口部、および、中海エリアにおける観光振興の取組について報告を行い、意見交換を行った。

◇ワーキングメンバーからの意見等

斐伊川河口ツアーについて

- ・斐伊川河口ツアーについて、観光協会がここ3年ほど継続しているが、あの素晴らしい自然の景観や大型水鳥のダイナミックさを今後も「参加料500円」で提供し続けていくのか、ご検討いただきたい。
- ・斐伊川河口ツアーは、最初はもっと高い料金設定で、宿泊などもセットで企画したがうまくいかなかった経緯がある。今は出雲市等に住む人々に、一人でも多く知ってほしいとする考えからこの値段設定にしている。ただ、素晴らしい古来からの宝物を観光資源として伝えていくためには、それなりの対価も必要になる。この対応について、今後、観光協会とこのワーキングの中で協力しながら検討していきたい。

中海ツアーについて

- ・東出雲観光の取組は面白いと思う。圏域内外の人々に対し、地域の自然のよさを知ってもらうような取組は、他の観光業者等にも広く紹介していければ良い。
- ・行政からの視点となるが、農業体験や環境保全活動をツアーとして実施する場合、ツアーを企画するのではなく、コンテンツとして観光業者等に紹介し、商品として作り上げていってもらった方が、実現の近道になると思う。

今後の方向性

斐伊川河口ツアーについては、開催回数を増やす、食事や温泉などのオプションを設ける等し、利益を高めていく仕掛けについて検討する。

中海ツアーについては、商品となり得るコンテンツを整理し、国内向け、国外向けの両方を視野に入れ、引き続き地元観光業者との連携方策について検討する。

また、これらの観光振興の取組を支援するため、ウェブサイトのコンテンツについても、検討を進める。

(5) 地域振興の取組

◇斐伊川河口ツアーの催行(報告)

イベント名	雁(かり)が音(ね)を聴くツアー
日時	[第一回] 2021年12月11日(土) 15:45~ [第二回] 2021年12月19日(日) 15:45~
集合	道の駅 湯の川(出雲市)
参加人数	(要予約・先着5組) [第一回] 大人10名、小学生以下3名 [第二回] 大人12名、小学生以下9名
参加費	観察プラン 500円(税込、小学生以下無料) 観察・夕食付プラン 大人2,500円 小人¥1,200円 ※会場:四季荘(入浴付き、ツアーに因んだ料理の提供)
主催	(一社) 出雲観光協会
協力	斐伊川水系生態系ネットワークによる大型水鳥と共に生きる地域づくり検討協議会・(公財)日本生態系協会
ツアー内容	<ul style="list-style-type: none"> 道の駅湯の川で受付後、参加者が各自の自家用車で斐伊川河口部へ移動。 ガイドの案内のもと河口域の野鳥を観察。その後、宍道湖湖心へ飛ぶマガンのねぐら入りを観察。
感想等	「とても感動した」「実物はすごいのでみんなに見てほしい」 「説明が面白かった・わかりやすかった」等 参加者満足度は8.8~9.3点/10点



マガンのねぐら入りを観察



堤防上からマガンを観察

ツアー開催にあたっての工夫点など

- ・基本プランは安価で短時間の現地集合型ツアー(夕食・温泉はオプション)
- ・河口近くでのマガン観察や好天が期待できることから開催時期を12月に変更
- ・双眼鏡の使い方や雁の簡単な見分け方等を端的に解説できるように、集合時の説明スライドを改良
- ・参加者の観察ベースを考慮し、現地では全員を集めての説明は控え、声かけや質問など個別対応を重視
- ・出雲観光協会スタッフがガイドとして活動できるよう事前研修を実施(2回)



ガイド研修の様子

観光協会スタッフによる説明
(第二回開催時)



◇中海ツアーの検討

観光協会へのヒアリング(米子市観光協会)

ツアー内容について

- ・立ち寄り先や同行者としてのガイドは必須

取り組みの展開について

- ・少人数プランや教育旅行としてのツアーの方が可能性があるかもしれない
- ・自然、健康、エコ、SDGs等に関心がある方へのプロモーションが必要

観光事業者へのヒアリング(東出雲観光)

同社のバスツアーの特徴

- ・親子で楽しめる家族向け商品にシフト
- ・バス移動時間もツアーコンテンツとして活用
(例:現地に着くまでの時間でクイズや動画を使った事前知識の提供)
- ・地元農事組合とタイアップした奥出雲農業体験ツアーの開催

生態系ネットワークとの連携可能性について

- ・奥出雲農業体験ツアーの新しいコンテンツとしてコウノトリなどを組み入れるかもしれない
- ・既存のコンテンツの中に、盛り込む程度であれば可能性はある
(例:スキーツアーの行き帰りにハクチョウの情報を流す、ハクチョウ観察と餅つきなどを組み合わせる)

◇斐伊川水系生態系ネットワーク ウェブサイトの開設

愛称等を決める一般投票の開催にあわせ、斐伊川水系の自然の魅力や、生態系ネットワーク形成の取組を広く伝えることを目的としたウェブサイトを開設した。

<https://sites.google.com/view/hiikawa-econet>



愛称・シンボルマークのウェブ投票には当サイトを使用した。

- ・ 今後、決定した愛称およびシンボルマークは、その使用方法とあわせて本サイトでも紹介する予定。
- ・ 生態系ネットワークの形成や、形成を通じた地域振興の取組を広く伝える情報発信サイトとしての機能を強化するため、コンテンツの充実に向け検討を進める。

コンテンツ(2022年4月現在)



生態系ネットワークとは



斐伊川水系の自然の魅力



指標となる大型水鳥について



協議会について



協議会の愛称・シンボルマーク

(詳細から寄せられたメッセージはこちらです。)



写真ギャラリー

4. 環境学習ワーキングの開催

(1) 概要

2022年3月25日(金)に、学校を対象とした環境学習の進め方について、議論をおこなった。

日時	2022年3月25日(金) 10:00~12:00		
場所	国土交通省 出雲河川事務所 会議室(オンライン併用)		
参加メンバー	NPO法人 国際交流フラワー21 理事長	青木 広幸	しまね花の郷
	出雲市 農林水産部 朱鷺のまち推進室 室長	梶谷 房生	
	NPO法人 いずも朱鷺21 理事長	原田 孟	
	(公財)日本自然保護協会 自然観察指導員	藤原 政明	
	(公財)しまね自然と環境財団 島根県立三瓶自然館サヒメル 学芸課企画幹	星野 由美子	
	(公財)ホシザキグリーン財団 ホシザキ野生生物研究所 所長	森 茂晃	
その他	協議会参加自治体の関係部署		
	国土交通省 出雲河川事務所		
	(公財)日本生態系協会		
主な議題	・これまでの環境学習推進の取組の報告、および、今後の展開について		



(2) 主な議事内容

◆ これまでの環境学習推進の取組の報告、および、今後の展開について

- ・事務局の取組として、以下について報告した。
 - ① 環境学習プログラム集に関心があると回答のあった小学校への、プログラム導入・実現に向けた働きかけ
 - ② 奥出雲町の小学校を対象とした環境学習の提案
- ・①については環境学習の担い手と以前から繋がりがあった一部の学校での実施にとどまり、②は実施に至らなかった。
- ・この結果と、実施に至らなかった原因の整理および次年度以降の展開案について報告し、意見交換を行った。

◇ ワーキングメンバーからの意見等

- ・学校教育に外部で企画立案した環境学習を導入してもらうのは簡単ではない。そうした困難さを踏まえた上で、継続して事務局からも直接学校へ働きかけたり、こちらの動きを支援したりしていただければありがたい。
- ・学校に入り込むポイントは、①授業内容について、ある程度、学校側の裁量に任せること、および②ふるさと教育※に組み入れてもらうこと、の2つ。
※地域の教育資源(「ひと・もの・こと」)を活かし、ふるさとに誇りを持ち心豊かでたくましい子どもを育むことを目的とした教育活動。
- ・働きかける先を学校だけにしぼる必要はないと考える。地域の子ども向け、家族向けの環境学習プログラムの企画についても進められると良い。
- ・トキーつとつても、野生復帰を進めようとしている出雲市の中で、大人の理解が進んでいるとは言いがたい状況。大人を対象とした普及についても進めていくことが必要ではないか。

この他、他地域の大型水鳥を活用した環境学習の学校への導入事例について、日本生態系協会より情報提供を行った。

今後の方向性

環境学習プログラム集の配布、および周知を継続するとともに、協議会委員およびワーキングメンバーと連携し、以下についても検討・実施を進める。

- ・学校の先生との、顔の見える関係を構築する
- ・地域で行われるイベントへ参加し、生態系ネットワークの取組や、圏域の自然環境を活かした環境学習を周知する(奥出雲町を想定)

5. 水辺環境・鳥類(合同)ワーキングの開催

(1) 概要

東部(中海周辺エリア)、西部(宍道湖・斐伊川・神戸川周辺エリア)に分け、流域全体の生息環境づくりの進め方等について、議論を行った。

日時	(東部) 2021年12月9日(木) 19:00~21:00 (西部) 2021年12月17日(金) 14:00~16:10	
場所	オンライン会議	
参加メンバー (東部)	米子水鳥公園 館長	神谷 要
	米子水鳥公園 指導員	桐原 佳介
	NPO法人日本野鳥の会鳥取県支部 副支部長	田中 一郎
	NPO法人日本野鳥の会鳥取県支部 理事	津森 宏
	NPO法人日本野鳥の会鳥取県支部 支部長	土居 克夫
	米子水鳥公園 指導員	三原 菜美
(西部)	米子水鳥公園友の会 副代表	山中 克子
	島根県立三瓶自然館サヒメル 課長代理	井上 雅仁
	日本野鳥の会 島根県支部	北脇 努
	(公財)日本野鳥の会 副会長	佐藤 仁志
	日本野鳥の会 島根県支部	野津 登美子
	(公財)ホシザキグリーン財団 事業課	林 成多
	ホシザキ野生生物研究所 調査研究係長	
	(公財)しまね自然と環境財団	星野 由美子
島根県立三瓶自然館サヒメル 学芸課企画幹		
(公財)ホシザキグリーン財団	森 茂晃	
ホシザキ野生生物研究所 所長		
その他	協議会参加自治体の関係部署、環境省、農林水産省	
	国土交通省 出雲河川事務所	
	(公財)日本生態系協会	
主な議題	①協議会の推進体制の改組について ②斐伊川水系の自然再生について ③全体構想短期目標の達成に向け必要な事項について	

(2) 主な議事内容

◆ 斐伊川水系の自然再生について

現在出雲河川事務所で作成を進めている「自然再生計画」について、計画の方針案の説明を行った。

◇ ワーキングメンバーからの意見等

- 過去の鳥類ワーキング(※)で出し合った意見がどのように反映されているかわからない。具体的に何をやるのかわからない、全体像が見えない。(東部)
- モニタリングの計画が示されているが、ガン類やハクチョウ類しか名前がない等、大型水鳥類を扱う範囲が狭いように見える。大型水鳥の調査は、本計画とは別枠で進めていく予定か。(西部)

◆ その他、ワーキングにおいて出された意見

- 伊萱の下流側で規模の大きな工事が入っているが、この工事について本ワーキングにも協議会にも話が通っていない。今後も川の中の工事が、こちらに知らされないまま進んでしまうのではないかと心配している。(西部)
- 斐伊川水系の各河川全体の、あるべき姿を早く示し、国交省の中で共有してほしい。(西部)
- 国管理河川だけでなく、県管理河川も大型水鳥の生息地として重要な場所がある。本ワーキングで議論ができるようにしてほしい。(西部)
- こうした現状の報告、問題提起ができる場合は、定期的に持ってほしい(西部)

今後の方向性

河川管理者が実施する自然再生事業を早期に立ち上げ、これまでの意見交換の内容も含め、具体的な整備内容、モニタリング計画等を本ワーキングで検討しつつ、現地の整備等につなげる。

本ワーキングの場を活用し、国管理河川における今後の工事予定等について情報提供を行い、意見交換を図る。

国管理河川だけでなく、他の河川、堤内を含む流域全体の生息環境づくりの進め方についても検討するため、関係団体等と調整を図る。